

授 業 計 画

No.1

授業科目	Linux基礎		担当教員	小野 健裕	クラス	ITスペシャリスト科 3年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	LPICは、Linux技術者認定試験(Linux Professional Institute Certification)であり、LinuxOSについての知識と技術を持っていることを認定し、Linuxの基本操作とシステム管理が行えるエンジニアであることを証明できる資格である。LPICは101試験と102試験で構成されている。授業では101試験の範囲である、GNUとUnixコマンド、Linuxファイルシステムを中心に学習していく。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	80 %	課題	0 %	他	20 %
教科書	・「LPICレベル1教科書 & 問題集」		副教材および参考文献		・プリント		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	103: GNUとUnixコマンド①	Linuxのメタキャラクタ
第2回	103: GNUとUnixコマンド②	Linuxのテキストフィルタ処理
第3回	103: GNUとUnixコマンド③	ファイルとディレクトリの管理
第4回	103: GNUとUnixコマンド④	ストリーム、パイプ、リダイレクト
第5回	103: GNUとUnixコマンド⑤	プロセスの作成、監視、終了
第6回	103: GNUとUnixコマンド⑥	プロセス優先順位の変更
第7回	103: GNUとUnixコマンド⑦	正規表現を使ったテキストファイル検索
第8回	103: GNUとUnixコマンド⑧	viを使ったテキストファイル編集
第9回	103: GNUとUnixコマンド⑨	viを使ったテキストファイル編集の応用
第10回	104: Linuxファイルシステム①	パーティションとファイルシステムの作成
第11回	104: Linuxファイルシステム②	ファイルシステムの整合性の維持
第12回	104: Linuxファイルシステム③	ファイルシステムのマウントとアンマウント
第13回	104: Linuxファイルシステム④	ファイルのパーミッションと所有権
第14回	104: Linuxファイルシステム⑤	ハードリンクとシンボリックリンクの作成
第15回	総復習	総復習の実施
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	情報総合Ⅲ		担当教員	石濱 友裕	クラス	ITスペシャリスト科 3年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この授業では、高度専門士として備えるべき論理的思考力や主体的に考える力を身に着けるため、毎回特定の題材についての講義を、それに対するレポート作成を行う。講義で扱う題材としては、IT技術に関連するものをメインとして扱い、他授業への良いフィードバックがあることを期待している。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	80 %	他	20 %
教科書	なし			副教材および参考文献		補助教材	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	NW① - デジタル信号の伝送	2進数と記憶容量や伝送速度に利用されるデータ量の単位について
第2回	NW② - プロトコルとOSI参照モデル	通信プロトコルとネットワークアーキテクチャであるOSI参照モデルについて
第3回	NW③ - IPアドレスとサブネットマスク	IP、IPアドレスとサブネット、サブネットマスクについて
第4回	NW④ - TCPとUDP	トランスポート層の通信プロトコルであるTCP、UDPのそれぞれの特徴について
第5回	NW⑤ - 電子メールの仕組み	メールソフトやWebを利用した電子メールの送受信の仕組みについて
第6回	アルゴリズム① - 条件分岐	C言語によるif文、if-else文と比較演算子、条件演算子について
第7回	アルゴリズム② - ループの仕組み	大量の繰り返しの計算を高速かつ正確にこなすループの仕組みについて
第8回	アルゴリズム③ - 関数	関数の引数と戻り値についてと、値渡しと参照渡しの違いについて
第9回	アルゴリズム④ - 配列の仕組み	配列、他次元配列の仕組みとその応用について
第10回	アルゴリズム⑤ - ソーティング	基本的なソーティングのアルゴリズムとその計算量、特徴について
第11回	SW① - データの符号化	光や音などのアナログデータをデジタルデータに変換する方法について
第12回	SW② - データベースの考え方	「関係データモデル」と、その正規化の手法について
第13回	SW③ - オブジェクト指向	オブジェクト指向型と呼ばれる考え方とその利点について
第14回	SW④ - ソフトウェア工学	ソフトウェアの質を向上させるための手法や開発管理の方法について
第15回	SW⑤ - ユーザインタフェース	「利用しやすさ」に関する定義と開発プロセスについて
第16回	レポート	最終レポート提出

授 業 計 画

No.1

授業科目	ネットワーク		担当教員	小野 健裕	クラス	ITスペシャリスト科 3年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	CCNA (Cisco Certified Network Associate) はコンピュータネットワーク機器の大手、シスコシステムズ合同会社 による認定資格である。ネットワークに関する基礎知識が求められる認定資格になるが、試験自体は任意受験とする。ネットワークといっても範囲は広く、レイヤー2のスイッチングやレイヤー3のルーティング、無線接続、セキュリティ、ネットワークに関わる広範囲の知識の習得をねらいとする。期末試験はCCNA問題集から出題する。							
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。						
	評価割合	試験	80 %	課題	10 %	他	10 %	
教科書	パッとわかるCCNAの授業			副教材および参考文献		スライド、補助課題など		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス/ネットワークの基礎	ネットワークの基本
第2回	OSI参照モデルの詳細	OSI参照モデルの応用
第3回	データリンク層での役割	データリンク層について
第4回	ネットワーク層での役割	ネットワーク層について
第5回	ポート番号	各ポート番号の役割
第6回	CCNA問題を解く	CCNA試験問題
第7回	CCNAの問題の復習	CCNA問題の解説
第8回	中間まとめ	中間まとめの実施
第9回	ルーティング問題	CCNAのルーティング問題を解く
第10回	ルーティング問題の解説	CCNAのルーティング問題の解説・復習
第11回	操作モードの基本	Cisco機器の操作モードについて
第12回	操作モードの応用	Cisco機器の操作モードの応用
第13回	ネットワーク構築の基礎	ネットワーク構築の基本
第14回	ネットワーク構築の詳細	ネットワーク構築の応用
第15回	総復習	総復習の実施
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	ビジネス文書作成		担当教員	竹野谷 義彰	クラス	ITスペシャリスト科 3年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ／週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	・デジタル化の進展によって、ビジネスパーソンが文章で表現する機会は増えており、文章力の必要性はさらに高まっている。情報量が増える中で、読み手に最後まで読んでもらえる文章、印象に残る文章、伝わる文章とは、どのようなものなのかを考える。意識的な文章の書き方や整理法について、具体的な事例を交えることで、日常での活用イメージを持って学習する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	80 %	課題	0 %	他	20 %
教科書				副教材および参考文献			

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	・ガイダンス	・文章を書く目的
第2回	・伝わらない文章	・文章を書く上でのNGポイント
第3回	・読まれる文章	・長さと言語／述語
第4回	・印象操作	・ひらがな／カタカナ／大和言葉
第5回	・心に響く文章	・過去形＋現在系／比喩表現／感性
第6回	・印象操作	・ひらがな／カタカナ／大和言葉
第7回	・説得する文章技術	・具体例／空間と時間
第8回	・心に響く文章	・過去形＋現在系／比喩表現／感性
第9回	・突っ込みされる文章	・表現と論理／発想／文体
第10回	・基本マナー：(1)	・OK / NGポイント
第11回	・基本マナー：(2)	・頭語 / 結語、前文 / 主文
第12回	・敬語 / 文章基本マナー	・間違えないルール
第13回	・メール / FAXマナー	・メールマナー / FAX受送信
第14回	・業務文書	・通知 / 案内 / 回答 / 回覧 / 報告
第15回	・期末試験	・期末試験の実施
第16回		

授 業 計 画

No.1

授業科目	デジタル法制度		担当教員	小野 健裕	クラス	ITスペシャリスト科 3年	
期別	後期	履修コマ数	コマ/週	授業形態	講義	単位数	

授業概要	この科目は、情報処理分野の激しい変化によって現実には起こっている問題や問題解決のためのルールを学び、その知識を情報化社会の中で、活かせることをねらいとする。加えて情報処理技術者試験で、「関連法規」分野の知識を身に付ける。また、提出課題を通じて自分の伝えたい内容を適切な手段を用いて、的確に相手に伝えられるようことを目指す。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	50 %	課題	30 %	他	20 %
教科書	「デジタル社会の法制度」			副教材および参考文献		資料プリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	科目のガイダンス 第1章	1. 1～1. 3 法律と責任の考え方
第2回	第2章 人格に基づく権利	2. 1～2. 3 名誉権、プライバシー権、パブリシティ権
第3回	第3章 商標	3. 1～3. 2 知的財産権、商号
第4回	第3章 不正競争防止法	3. 3～3. 4 商標、不正競争防止法
第5回	第4章 特許/実用新案等	4. 1～4. 3 産業財産権、特許権、実用新案権、意匠権
第6回	第5章 著作権	5. 1～5. 3 著作物、著作権保護と制限
第7回	同：出版権/国際的保護	5. 4～5. 6 出版権、著作隣接権、国際的著作権保護
第8回	中間まとめ	中間まとめの実施
第9回	第6章 不正行為責任と契約	6. 1～6. 2 不正行為責任、契約と契約上の責任
第10回	第7章 Webサイト管理と法律	7. 1～7. 2 人格権とプロバイダ責任制限法
第11回	第8章 電子商取引に関わる法律	8. 1～8. 3 法的義務と広告メールの規制
第12回	第9章 サイバー犯罪	9. 1～9. 4 サイバー犯罪、ネットワーク利用犯罪
第13回	第10章 情報処理技術者が	10. 1～10. 2 電気通信事業法、労働者派遣事業法
第14回	知っておくべき法知識	10. 3～10. 5 個人情報保護～サイト規制法、古物営業法
第15回	総復習	総まとめ
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	クラウド概論		担当教員	沼田 聡暁	クラス	ITスペシャリスト科 3年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	本講義はAWSのクラウド実習の延長で、AWSの技術や仕組みを中心に講義を行う。 問題演習を行いながら、知識の定着を図る。 中間試験、期末試験を実施するが、受験は任意受験とする。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	80 %	課題	0 %	他	20 %
教科書	AWS認定 クラウド プラクティショナー			副教材および 参考文献		オリジナル	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	AWS認定とは	学習方法について
第2回	AWSクラウドの概念	クラウドアーキテクチャの設計原理
第3回	AWSのセキュリティ①	AWSクラウドのセキュリティ
第4回	AWSのセキュリティ②	AWS ShieldとAWS WAF
第5回	AWSのテクノロジー	グローバルインフラストラクチャ
第6回	コンピューティングサービス①	EC2の概要
第7回	コンピューティングサービス②	Auto Scaling
第8回	ストレージサービス①	EBS
第9回	ストレージサービス②	S3
第10回	ネットワークサービス①	VPC
第11回	中間試験	中間試験
第12回	ネットワークサービス②	CloudFront
第13回	データベースサービス	RDSとDynamoDB
第14回	管理サービス	CloudWatch
第15回	請求と料金	AWS請求モデル
第16回	期末試験	期末試験

授 業 計 画

No.1

授業科目	Python開発演習		担当教員	石濱 友裕	クラス	ITスペシャリスト科 3年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	演習	単位数	1

授業概要	本科目は、2年次にPythonの基礎構文を習得済みであることを踏まえ、具体的なアプリケーションの作り方を学習することで、より実用的な開発スキルの習得を目的としている。各テーマごとに提出課題を設けており、課題の提出状況に応じて成績を付与する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	80 %	他	20 %
教科書	なし			副教材および参考文献		配布スライド	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	Django - フォーム②	画像をアップロードするためのフォームの作成
第2回	Django - フォーム③	画像をアップロードする
第3回	Django - ユーザ管理①	ユーザ認証について/ユーザモデルの拡張/サインアップ画面の定義
第4回	校外学習	CEATEC2023
第5回	Django - ユーザ管理②	ログイン/ログアウト処理の定義
第6回	演習課題①	これまでの内容の課題実施
第7回	ファイル操作①	フォルダの一覧表示、ファイルの絞り込み検索、ファイル名の変更
第8回	ファイル操作②	ZIPファイルの圧縮、展開
第9回	テキストデータの処理①	テキストファイルの読み込み、文字列の検索・置換・分割・結合
第10回	テキストデータの処理②	正規表現を使った文字列の扱い
第11回	演習課題②	ファイル・テキストデータについての課題実施
第12回	OpenCV①	OpenCVとは、画像の読み込み、画像情報の取得
第13回	OpenCV②	画像のモノクロ化・二値化、ノイズの除去
第14回	OpenCV③	顔画像の検出、カメラへのアクセス
第15回	演習課題③	OpenCVについての課題実施
第16回	演習課題④	これまでに出したすべての課題の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	進級制作Ⅱ		担当教員	石濱/渡部/根本	クラス	ITスペシャリスト科 3年	
期別	後期	履修コマ数	3 コマ/週	授業形態	演習	単位数	3

授業概要	この科目は、3年間ITスペシャリスト科で学んだ知識と技術を活かし、更に新しいことにチャレンジし、現時点での集大成といえるようなシステムやプログラムを制作する。 また、就職活動が本格化する直前の制作であるため、自身の就職活動でアピールできるような制作物を自ら設定し、主体的に取り組むことを進め方の基本とする。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	80 %	他	20 %
教科書	なし			副教材および参考文献	ドキュメント見本(企画書・画面設計書・画面遷移図・内部設計書・概要書他)		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	進級制作ガイダンス	ガイダンス、顧客ヒアリング、議事録の作成
第2回	基本計画(1)	議事録の作成、要求事項一覧の整理、企画書の作成
第3回	基本計画(2)	企画書の作成
第4回	基本計画(3)	企画書の作成 スケジュール作成
第5回	基本計画(4)	企画書の作成 用語集作成
第6回	基本計画(5)	企画書の作成 ユースケース図作成
第7回	基本計画(6)	ユースケース記述の作成
第8回	基本計画(7)	業務フロー検討
第9回	基本計画(8)	業務フロー検討続き、基本計画の完成
第10回	基本設計(1)	システム構成図の作成
第11回	基本設計(2)	機能一覧の作成
第12回	基本設計(3)	画面設計書の作成(画面一覧、画面遷移図)
第13回	基本設計(4)	画面設計書の作成(画面遷移図、画面設計書)
第14回	基本設計(5)	データベース設計(ER図・CRUD表)
第15回	基本設計(6)	データベース設計(ER図・CRUD表・データベース項目定義書)
第16回	詳細設計(1)	データベース設計(データベース項目定義書)

	講 義 計 画	実 施 細 目
第17回(/)	詳細設計(2)	クラス図の作成 中間発表用モックアップ作成
第18回(/)	詳細設計(3)	クラス図の作成続き 中間発表用モックアップ作成
第19回(/)	詳細設計(4)	シーケンス図の作成 中間発表用モックアップ作成
第20回(/)	詳細設計(4)	シーケンス図の作成続き 中間発表用モックアップ作成
第21回(/)	中間発表準備(1)	発表資料作成(PPT)
第22回(/)	中間発表準備(2)	発表リハーサル
第23回(/)	中間発表(1)	中間発表
第24回(/)	中間発表(2)	中間発表(予備日)
第25回(/)	プログラム作成(1-1)	開発環境構築及び調査作業
第26回(/)	プログラム作成(1-2)	プログラム部分の簡易フロー作成
第27回(/)	プログラム作成(1-3)	実装作業を受け、設計書とのズレを修正
第28回(/)	プログラム作成(1-4)	現時点でのコードレビュー
第29回(/)	プログラム作成(1-5)	レビューのフィードバックを受け、プログラムの修正
第30回(/)	プログラム作成(1-6)	新規プログラムの作成
第31回(/)	プログラム作成(2-1)	基本設計書に基づき制作:モジュール計画
第32回(/)	プログラム作成(2-2)	基本設計書に基づき制作:モジュール分割
第33回(/)	プログラム作成(2-3)	基本設計書に基づき制作:モジュール一覧作成
第34回(/)	プログラム作成(2-4)	基本設計書に基づき制作:モジュールI/F一覧作成
第35回(/)	プログラム作成(2-5)	基本設計書に基づき制作:モジュールI/F作成
第36回(/)	プログラム作成(2-6)	詳細設計書に基づき制作:フローチャート作成
第37回(/)	プログラム作成(2-7)	詳細設計書に基づき制作:mainのコーディング
第38回(/)	プログラム作成(2-8)	詳細設計書に基づき制作:ドライブのコーディング
第39回(/)	プログラム作成(2-9)	詳細設計書に基づき制作:スタブのコーディング
第40回(/)	プログラム作成(2-10)	詳細設計書に基づき制作:mainの単体テスト
第41回(/)	プログラム作成(2-11)	詳細設計書に基づき制作:ドライブ、スタブの単体テスト
第42回(/)	プログラム作成(2-12)	詳細設計書に基づき制作:結合テスト
第43回(/)	プログラム作成(2-13)	詳細設計書に基づき制作:システムテスト
第44回(/)	本発表準備(1)	発表資料作成
第45回(/)	本発表準備(2)	本発表に向けてリハーサル(デモンストレーションなし)
第46回(/)	本発表準備(3)	本発表に向けてリハーサル(デモンストレーションあり)
第47回(/)	本発表(1)	本発表 グループA
第48回(/)	本発表(2)	本発表 グループB

授 業 計 画

No.1

授業科目	就職講座 I		担当教員	大木 正臣	クラス	ITスペシャリスト科 3年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	1

授業概要	この科目は、前期のビジネス講座を基盤として、就職活動に必要な正しい履歴書の書き方や面接スキル向上を重点に就職対策を行います。自分をしっかり表現できる自己PR、志望動機などを段階的に整理し、履歴書やエントリーシートをしっかりと記入できることを目的とする。また、グループでの面接練習や企業人事を招いての模擬面接も実施し、就職活動への意識を高めていきます。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	60 %	課題	0 %	他	40 %
教科書	就職テキスト		副教材および参考文献		オリジナルPPT 適宜プリント、データの配布		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	授業オリエンテーション	就職活動の心構え(要点整理)。HOPE II の活用について。
第2回	就活準備①	履歴書作成のポイント。
第3回	就活準備②	自己PR作成のポイント。
第4回	校外学習	CEATEC 2023の見学
第5回	就活準備③	履歴書作成
第6回	就活準備④	履歴書総括、まとめ。DVD「面接でアピールしよう」の視聴。
第7回	就活準備⑤	面接所作のポイント及びロールプレイ-1
第8回	就活準備⑥	面接所作のポイント及びロールプレイ-2。就活準備のまとめ。
第9回	面接ロールプレイ①	グループ面接練習-1
第10回	面接ロールプレイ②	グループ面接練習-2
第11回	面接ロールプレイ③	グループ面接練習-3
第12回	面接ロールプレイ④	グループ面接練習-4
第13回	面接ロールプレイ⑤	グループ面接練習-5
第14回	面接ロールプレイ⑥	グループ面接練習-6
第15回	面接ロールプレイ⑦	企業人事を招いての模擬面接。
第16回	期末試験	授業の振り返り。期末試験の実施。

授 業 計 画

No.1

授業科目	就職講座Ⅱ		担当教員	大木 正臣	クラス	ITスペシャリスト科 3年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	演習	単位数	1

授業概要	・企業の就職選考試験として取り入れられているSPI(選抜試験の総称としてSPIという語を用いるが、実際の試験は様々な問題が存在)試験対策を行う。SPIでは言語分野・非言語分野、一般常識では国語・社会・数学等の中から学習すべきポイントについて理解を深め知識の定着を図る。授業の中で、模擬テスト(性格検査・SPI3)を実施し、自分の理解度を確認して就職試験の本番までに突破できる力を養成することを目標とする。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	80 %	課題	0 %	他	20 %
教科書	・副教材 : プリント			副教材および参考文献		・「CAB・GAB超速解法」	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	・ガイダンス	・ガイダンス:CAB/GAB概要
第2回	・CAB言語分野[数学]:暗算①	・暗算:[01]～[25]
第3回	・CAB言語分野[数学]:暗算②	・暗算:[26]～[50]
第4回	・CAB言語分野[数学]:法則性①	・法則性:[01]～[15]
第5回	・CAB言語分野[数学]:法則性②	・法則性:[16]～[30]
第6回	・CAB言語分野[数学]:命令表①	・命令表:[01]～[16]
第7回	・CAB言語分野[数学]:命令表②	・命令表:[17]～[28]
第8回	・25卒就職用写真撮影	・25卒就職用写真撮影
第9回	・CAB言語分野[数学]:命令表③	・命令表:[29]～[40]
第10回	・CAB言語分野[数学]:暗号①	・暗号:[01]～[18]
第11回	・CAB言語分野[数学]:暗号②	・暗号:[19]～[40]
第12回	・GAB言語分野[言語]①	・言語:[01]～[06]
第13回	・GAB言語分野[言語]②	・言語:[07]～[13]
第14回	・GAB言語分野[計数]①	・計数:[01]～[20]
第15回	・GAB言語分野[計数]②	・計数:[21]～[40]
第16回	・期末試験	・期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	スポーツ実習		担当教員	大友 健太郎	クラス	ITスペシャリスト科 3年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	演習	単位数	1

授業概要	この科目は、スポーツを通し、体を動かすことで爽快感・達成感・他者との連帯感等、精神的な充足も図り、更には、体力の向上・ストレスの発散・生活習慣病の予防など、心身両面にわたる健康の保持増進を目的とする。また、様々なスポーツを経験することで新しい気付きや、楽しさを発見する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	80 %	他	20 %
教科書	なし			副教材および参考文献		なし	

	講 義 計 画		実 施 細 目	
	A種目	B種目	A種目	B種目
第1回(/)	バレーボール①	バスケットボール①	トス練習 → 紅白戦	パス練習 → 紅白戦
第2回(/)	バレーボール②	バスケットボール②	トスリレー → 紅白戦	パスリレー → 紅白戦
第3回(/)	バレーボール③	バスケットボール③	レシーブ練習 → 紅白戦	ドリブル練習 → 紅白戦
第4回(/)	バレーボール④	バスケットボール④	レシーブリレー → 紅白戦	ドリブルリレー → 紅白戦
第5回(/)	バレーボール⑤	バスケットボール⑤	サーブ練習 → 紅白戦	シュート練習 → 紅白戦
第6回(/)	バレーボール⑥	バスケットボール⑥	サーブ陣取り合戦 → 紅白戦	シュート対決 → 紅白戦
第7回(/)	バレーボール⑦	バスケットボール⑦	紅白戦	紅白戦
第8回(/)	バレーボール⑧	バスケットボール⑧	紅白戦	紅白戦
第9回(/)	バレーボール⑨	バスケットボール⑨	紅白戦	紅白戦
第10回(/)	バレーボール⑩	バスケットボール⑩	紅白戦	紅白戦
第11回(/)	バレーボール⑪	バスケットボール⑪	紅白戦	紅白戦
第12回(/)	バレーボール⑫	フットサル①	紅白戦	パス・ドリブル練習 → 紅白戦
第13回(/)	バレーボール⑬	フットサル②	紅白戦	シュート練習 → 紅白戦
第14回(/)	バレーボール⑭	フットサル③	紅白戦	パス・ドリブル練習 → 紅白戦
第15回(/)	バレーボール⑮	フットサル④	紅白戦	シュート練習 → 紅白戦
第16回(/)	バレーボール⑯	フットサル⑤	紅白戦	紅白戦